

2009年度 2 学期 アジア文化概論 II (東南アジア古典文化論) 期末レポート課題

教員：青山 亨 (633 研究室)

課題配布日：2010 年 1 月 28 日． 課題提出日：2009 年 2 月 4 日(木)4 限 授業時間中

課題：以下の二つの問いの答えを指定の形式にしたがって別紙に記しなさい。

レポートの形式：A4 判 3 枚以内。1 ページの上部に「東南アジア古典文化論 2 学期期末課題」と書き、氏名・学籍番号を明記し、左上をホッチキス止めすること。

課題 1

右の写真は仏教の宇宙観を教えるために江戸時代後期（1850 年）に日本で作られた天体模型「須弥山儀」（直径 66.5cm、高さ 55cm）である（朝日新聞 2010 年 1 月 15 日より）。

これを見て、仏教による伝統的な世界観を簡単に説明しなさい。その場合、須弥山（スメール山）、閻浮提（ジャンブドヴィーパ）、切利天（三十三天）、帝釈天（インドラ神）、兜率天という用語を必ず使うこと。そして、この宇宙観において釈迦の「降兜率・入胎」がどのように起きたと考えられているを説明しなさい。



課題 2

インドの物語は、マハーバーラタやラーマーヤナのようなヒンドゥー教の物語の場合でも、仏伝やジャータカのような仏教の物語の場合でも、輪廻転生という考え方が背景に存在する。ラーマーヤナにおいて、ラーマが輪廻転生しているという設定によって、物語にどのような宗教的意味が与えられているかを説明しなさい。
